

澁澤塾の解体新書

1

2022 WINTER
vol.03

季刊澁澤塾



連載

- たまいろ・・・02
- 一橋名鑑・・・06
- 四半期振り返り会・・・16
- 幹部交代のお知らせ・・・18
- 会計報告・・・18

3つの「つながる」

- 一橋生と「つながる」・・・10
- 一橋OBOGと「つながる」・・・12
- 地域とつながる・・・14

特集

- 国立学園小学校での音楽祭・・・04

澁澤塾、 一周年





写真：青田哲



兼松講堂

ある夜の二橋の象徴

「たまいろ」は、澁澤塾の地域貢献プロジェクトの一つとして、「多摩地域の夜景を発掘し、地域のさらなる魅力を見つけて出す」を目的に活動しています。
一橋大学の象徴として親しまれている兼松講堂は夜になると、暗くなったキャンパスを歩く学生を暖かく包み込んでいます。



TAMAIRO_PROJECT

↑「たまいろ」は
Instagramで活動中



今回の開催に携わった澁澤塾メンバーと開催にあたってご協力いただいた「一般社団法人100万人のためのクラシックライブ」のお二人（真ん中・右）

今回生まれた 「つながり」から さらなる交流を

今回生まれた一橋大学と国立学園小学校様の学生の「つながり」を一過性なものに終わらせず、さらなる交流につなげていくことが重要です。

このような思いのもと、二月には、国立学園小学校様と共同で清掃活動を行うことが予定されています。元気いっぱい小学生と一緒に清掃活動をするのが今から楽しみです！

文…亀井康希

第二部では、大学生と小学生の交流が開催されました。「最近良かったこと」や「将来の夢」など話題は多岐に渡り、時に気楽に、時に真剣に交流することができました。

参加した小学生からは、「楽しかった」「勉強になった」との声がありました。

また、大学生からも「得られるものがたくさんあった」という声があり、両者にとって有意義な交流になりました。

小学生と大学生の交流から 何が生まれるのか



第2部は
こんな感じ！

第2部では、大学生1人と小学生4～5人の班に分かれて、「将来やりたいこと」などを話し合い、交流を深めた。上は社会学部1年の松下倫子、右は経済学部5年の瀬崎章吾と小学生が話している様子。



本プロジェクトは「クラシック音楽のコンサートを開催しないか」という一般財団法人「100万人のためのクラシックライブ」様のお誘いをきっかけとして始動したプロジェクトです。

その後、有志によるチームで「澁澤塾だからこそできる音楽祭」をテーマに企画を行いました。今回は、国立学園小学校様の協力のもと、「クラシック音楽を通じて、小学生と大学生が『つながる』きっかけ」を作り出すをテーマに開催が決定しました。

第一部では、一般社団法人「100万人のためのクラシックライブ」様による演奏が行われました。よく知られているクラシック音楽を奏でられるだけではなく、合間にクイズがあったり、一緒に音楽を奏でたりと、とても楽しいクラシック音楽祭となりました。

最初は緊張していた子供たちも途中からはノリノリになっていました。ここで緊張が解けたおかげで、第二部において小学生と大学生がスムーズに交流することができました。音楽の力の凄さに驚かされるばかりです。

クラシック音楽を通じて、 小学生と大学生が「つながる」



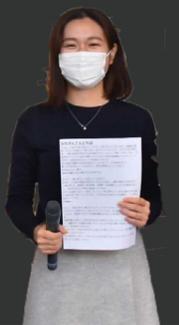
第1部は
こんな感じ！

第2部では、大学生1人と小学生4～5人の班に分かれて、「将来やりたいこと」などを話し合い、交流を深めた。上は社会学部1年の松下倫子、右は経済学部5年の瀬崎章吾と小学生が話している様子。



プロジェクトリーダー 白井 理咲子の感想

今回の企画を通して、生の音楽が聴く人の『心』に響く体験や、異なる立場に立つ人達の、「つながり」「出会い」を国立市に届けるとともに、運営側として今後につながる新しい視点を得ることができました。開催までにご協力頂いた皆様に変感謝申し上げます。



プロジェクトメンバー 関根 しほの感想

5月に100クラのイベントに初めて参加し、そこで聴いた温かい音色と雰囲気が忘れられません。この度国立学園小学校さま及び100クラの方々にご協力いただき、初めて本企画を開催することができました。当日は、多くの小学生に参加していただき、大変楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。今後も音楽を通じて国立市にあたたかい繋がりを届けていきたいです！





遠入 駿平

一橋大学 法学部5年

「人間関係を固定されるのが嫌いで、常に色々な人と関わっていたという想いがあるんです」

そう語ってくださった遠入さんは、大学の5年間でめまぐるしく様々なことに挑戦していました。

社会学部に入学した一年目で、テニスサークルと国際交流団体に所属。法学部に転学部した2年目には、知るカフェのインターンや学祭のダンス大会に挑戦し、3年目にはゼミの勉強に励んだそうです。

しかし、魅力的な人がいる環境、自分のやりたいことができる環境を追い求めるなかでは、挫折もあった模様。

それが、国際安全保障について学ぶゼミでの勉強でした。所属したそのゼミは、毎週150ページ近くの英文資料を読むことが課される、非常にシビアな環境。

遠入さん自身、英語能力にはある程度自信があったからこそ、得意分野が通用しない挫折感を味わったそうです。

そもそも、なぜそのゼミに入ったのか？私がそう疑問を投げかけると、「国際関係に興味があったため、厳しいところで「肌脱いで頑張ろうと思った」という回答が返ってきました。

心地よさに安住しない、遠入さんならではのチャレンジ精神が垣間見えますね。

遠入さんの挑戦は、それだけではありません。彼の大学生活を知るうえで欠かせないのが、スペインへの交換留学。その頃のお話を伺っていても、遠入さんのタフさがよく伝わってきました。

私が「留学先で悩んだことや挫折経験などありますか？」と問いかけると、「悩んだことはあまりない」という驚きの回答が。

遠入さんによると、留学先でも友達がすぐに来て楽しかったとのこと。欧米人のオープンなコミュニケーションが彼にとっては居心地よく感じられたのだそうです。ちなみに使用言語についてはですが、遠入さんの留学先であるバルセロナは英語を話せる人が多くはないため、基本的にスペイン語を使い、授業時や友人と遊ぶ際には英語を使っていたようでした。

スペイン留学を経て様々な経験を積み、たくさんの方を新しく学んだという遠入さん。そのスペイン留学の背後にはどのような考え・価値観があったのか探ってみました。

まず、そもそもなぜ海外留学を志したのでしょうか。「幼少期インドに住んでいたこともあり、海外で上手くやっていける自信があったが、それは家族など周りに守られていた側面が大きかった。一人で海外で生きていけるか、楽しめるかを確認かめ

るために留学した」

そう説明してくれました。周りのサポートが少ない環境でも柔軟に対応して自分の能力が通用するかに挑戦したいという想いがあったそうです。

様々な留学中の体験を通して、「自分は海外でも一人でうまくやっていける」という自信をつけることができたそうです。

次に湧き上がってくる疑問は、たくさんある留学先の中でなぜスペインを選んだのか、という点です。遠入さんにこれを尋ねたところ、理由は主として以下の2つであると解答してくれました。

- ① 遠入さんの代で初めて追加された留学先であり、自分の力を試すのにちょうどいい
- ② 第二外国語をスペイン語にしている、どうせなら使えるようにしたい
- ③ ダンス&ミュージックが好き

人間関係の

起爆剤になる

総合的にスペインが最も魅力的な留学先だと判断したため、スペインに留学に行く決意をしたと話してくれました。

「留学先を、大学の世界ランキングとか周りからの評価で決めちゃいがちだけど、自分軸で決めることが大事」

遠入さんの場合、過去の代で人気だったのがパリ政治学院だったそうです。初めはその人気と評判の高さに惹かれ、そこを志しました。しかし、自分が留学で何をしたいか、何を目的に留学をするのか再度考えた結果、パリ政治学院からスペインに志望を変更したそうです。自らの経験を踏まえたメッセージをいただけました！

前述したように、中学生のときから外交官を強く志していた遠入さん。大学入学まで、本当に外交官になるために人生のルートを意図的に選んできたといいます。

ですが、インターンや留学の経験を通して、自分の本当にやりたいことは外交官ではなかったことに気がつきます。

大学在学中に、外務省でインターンをする機会に恵まれたという遠入さん。その経験を通して、伝統を重視する外務省の組織風土は、自分にあまり合わないと感じたそうです。そして、自分の意志決定ではコントロールできない外部要因によって、自分のやりたいことが制限される、またはできない環境に身を置くのは、自分の理想に反すると実感したそうです。

この経験から、外交官として国に勤めるよりも民間企業に勤める方が自分に合っているのではないかと結論に至りました。さらに、外交官を目指すか民間企業に就職するかという選択で迷った際に大事にしていた2つの判断軸を教えてくださいました。

- ① 海外駐在ができる業界であること
- ② 風性関係なく色々な人とつながりを作れ、絶えず人間関係が変化する環境であること
- ③ 色々な経験を通して自分自身が成長できること

上記の2つの判断軸を踏まえ、改めて自分の輝ける場所はどこか考えた時に、「商社」という業界に最も惹かれたと語ってくれました。以上のような様々な思考を経て、遠入さんは2022年4月から日本の商社への入社を決めたようです。

最後に私達は遠入さんに、仕事に対する価値観を伺ってみました。

「人のために働くっていうのは自分は少し違う気がする。それは自分が満たされて幸せになって初めて他人を幸せにできると思うから。自分が好きなように働いていて自分が生き生きすることによって、他人にも幸せがもたらせられるのが良い！そしてその結果、自分がいなくなったら結びつかなくなった人同士を結び付けて、新しい商品だったり価値観を生むことが理想」と話してくれました。それを一言でまとめると、「人間関係の起爆剤」になりたいとのことでした。

自分のやりたいことに向かって、溢れんばかりの行動力を発揮する遠入さん。

そんな彼の語ってくれた言葉からは、「まず自分で自分を幸せにするべき」という一つのブレない軸が見えてきます。

現在スペインで留学生生活を満喫し、大学を卒業後も国外に羽ばたくであろう遠入さんが、今後どのくらいビッグな起爆剤になるのか、非常に楽しみです！

文：海野智美

一橋名鑑について、詳しくは二一頁へ

| 3つの「つながる」 |

一橋生と「つながる」

澁澤塾はより多くの一橋生が互いに知り合い、刺激を受ける場を提供しています。設立当初からあるオンラインコミュニティでは様々な属性の一橋生が交流することで新たな化学反応が起きます。また、澁澤塾発のWebメディア「一橋名鑑」では様々な形の大学生活を送る一橋生を紹介しています。

一橋OBOGと「つながる」

澁澤塾は一橋に「タテ」のつながりを作ろうとしています。講演会は、様々な一橋OBOGの方を登壇者として呼びびて、「生き様」を語っていただく企画です。また、今年の1月からスタートするShibusawa Conferenceは身近な社会課題に取り組んでおられる一橋OBOGの方を講師として呼びびし、一橋生が社会課題に取り組むきっかけを作る企画です。

ちいまと「つながる」

澁澤塾は活動を一橋大学内で終われせず、地域の方々と様々なプロジェクトを行っています。数多くのプロジェクトをまとめて「Kuni Project(通称:クニプロ)」と私たちは呼んでいます。これからも行政、地域の住民の皆さん、地元の学校の生徒さんなど多くの方と協力して、より良い地域作りをしていきます。

3つの「つながる」

澁澤塾って何やってるの？正直よくわからない……。

澁澤塾を理解するためのキーワードは「つながる」です。

一橋生と「つながる」

一橋OBOGと「つながる」

地域と「つながる」

以上の3つの「つながる」を澁澤塾は一橋生に提供しています。

でも、どんな「つながる」を提供しているのでしょうか。

ここではいくつかの取り組みを紹介します。

一橋生と「つながる」

様々な大学生活の形を一橋生に提示する

澁澤塾発の Web メディア



リーダー
亀井 康希

「大学生はどんな大学生活を送っているのか」
「他の大学生はどんな大学生活を送っているのだろうか」
そんなことを思っている高校生や大学生は多いのではないのでしょうか。
私たちはこの状況に一石を投じた
いと考えています。

その取り組みの一環として私たちは2021年4月には新入生を対象に「世界一橋受けたい授業」というイベントを開催しました。
本イベントでは、多様な大学生活を送っている一橋生を登壇者として呼び出し、自身の大学生活における選択について語っていただくことで、新入生に多様な選択肢に触れる機会を提供することを目指しました。

そのような中、より多くの方に様々な大学生活の形を提示するために私たちは「一橋名鑑」を立ち上げました。
「一橋名鑑」では、現在一橋大学に通っている方々のみならず、一橋生で大学生活を過ごすことに興味を持っている高校生に向けて、様々な選択をした一橋生の大学生

取材の様子。感染症対策のため、インタビューはZoom上で実施している。



Web サイトへは QR から↓



この一橋名鑑が一橋生の皆さんや一橋大学への入学を志す高校生に大学生活がより彩り豊かになるきっかけとなることを心から願います。
発信を続けていきます。

活の形を発信していきます。

一橋生と「つながる」

学び・思考・実践のサイクルを回す

一橋生限定オンラインコミュニティ



リーダー

山岡 麗奈

コミュニティ限定イベント「meet up」



11月のmeet upの様子。 コミュニティへの参加はQRから→



皆さんは、大学生の（あるいは一橋生の）コミュニティと聞いた時、どのようなものを思い浮かべるでしょうか。おそらく、サークル活動や部活動、ゼミナール、必修授業のクラスなどがその代表例でしょう。これらのコミュニティは、共通目標の達成を目的とした成果の最大化や、つながること自体を目的とした社会的欲求の充足を実現させるために、個人の集合体として十分に機能しています。しかし他方で、これらの現存する一橋生コミュニティには、人間関係の閉鎖性や同質性、カジュアルに言えば「界限」のようなものが内包されていることも、私自

身強く感じてきました。
大学は、高校よりも様々なバックグラウンドの人達が集まってきている場です。これを好ましいと感じるか否かは人によると思いますが、思わぬ気づきや新たな可能性が自分の「界限」の外に広がっていると捉えてみるのは、いかがでしょうか。
澁澤塾では一月にコミュニティをリニューアルしました。新コミュニティは、一橋生同士の交流そのものを目的に据えた従来コミュニティから進化させた形で、「交流の先にある、学び思考実践」の促進」に焦

新コミュニティの3つの主要な要素

<p>1 メンター制度</p> <p>澁澤塾の運営メンバーが各コミュニティメンバーにメンターとしてつき、コミュニティメンバーの要望を聞いたり、運営メンバーからコミュニティメンバーにおすすめるコンテンツを提示したりする制度。</p>	<p>2 全コミュニティメンバー参加のイベント</p> <p>月に1度、全コミュニティメンバーが参加するイベントが開催される。そこで互いに自身がやっていることを共有し、互いに刺激を受け合う。</p>	<p>3 自主ゼミ</p> <p>学生主体で学ぶ場を提供するために本コミュニティでは自主ゼミが行われている。あらゆる分野について学生が自発的に学びを行っている。</p>
---	---	--

点を当てています。
このように書くとは非常に「意識の高いマジメな」香りがしますが、興味関心のベクトルを問わず、自分にとってより良い大学生活を模索したい人達が集まれば、自然と刺激的でワクワクできるような場になると考えています。新コミュニティを通して、普段は別の「界限」にいる一橋生同士が、互いに新しい視点や選択肢を提示しあえるような、好循環の高め合いができれば素敵ですね。

一橋OBOGと「つながる」

身近な社会課題について学び・考え・行動を起こす

きっかけを一橋生に提供する

SHIBUSAWA CONFERENCE

#今、社会へ一歩踏み出そう

1.15-3.31

—主催—



澁澤塾
SHIBUSAWA JYUKU
後援：一般財団法人朝霧会



リーダー

亀井 康希

講義は全五回を予定しています。
第一回は、Life as Caravan 代表の中山 慎太郎様に登壇していただきます。第二回は、東京医科歯科大学 東京都地域医療政策講座・助教を務める長嶺由衣子様に「誰もが健康を享受できる社会づくり」というテーマでお話いただく予定です。第三回は、中野聡学長をお呼びし、「これからの大学と学生の関わり方」をテーマに登壇していただく予定です。第四回は、株式会社協同商事コエドブルワリー代表取締役社長の朝霧重治様に「これ

「Shibusawa Conference」は今日存在する社会課題に実際に取り組んでおられる一橋OBOGの方による特別講義を通して、より多くの一橋生に社会課題に取り組むきっかけを提供するイベントです。
多くの社会課題が存在する今日において、どのような社会課題が存在している、どのような取り組みがなされているのか。
そして、自分が興味のある社会課題は何なのか。自分に何ができるだろうか。そんなことを学び、考えるきっかけとなるようなイベントを目指しています。

第1弾は中山 慎太郎 様の講演を1月15日に予定している。

1.15 SAT
10:00-12:00
登壇

中山 慎太郎
Life as Caravan 代表
テーマ：社会問題に取り組む姿勢

SHIBUSAWA CONFERENCE
登壇者情報第1弾



詳しい情報はQRから↓



からの時代と「グローバル化」をテーマにお話いただく予定です。最後に、国立市議会議員の望月健一様に登壇していただく予定です。
一月中旬から三月中旬にかけて、開催していく予定です。お楽しみに！

一橋OBOGと「つながる」

澁澤塾だからこそ提供できる
講演会を

毎月、各界で活躍されている一橋OB・OGの方々に登壇者としてお呼びし、その方の生き様を語っていただき、その後の参加者同士のディスカッションを通して、参加者の学び・思考を深める機会となるような講演会を目指しています。

そのような講演会を作り上げるための工夫として、澁澤塾の講演会は二部構成としています。

第一部では、一般的な講演会と同じように、登壇者による講演と質疑応答を行います。

第二部では、あらかじめ用意した個人ワークシートに講演で得た気づき等を書き、その後、四、五人の班に分かれて、意見交換をします。同じ一橋生という同質性と違うバックグラウンドを持つ多様性が共存する空間での意見交換から新しい視点を学ぶことができます。また、この作業はそれぞれの参加者が講演を自分ごとと落とし込むことを企図しています。

11月講演会の様子



ます。
一二月は、経済学部・経営学研究所修士課程を卒業され、現在はMO法人フェアトレード・ラベル・ジャパンの事務局長をされている潮崎 真惟子様にも講演していただきました。
とても学びの多い、有意義な時間になりました！



リーダー

大西 侔生



SPEAKER: 潮崎 真惟子
一橋大学経済学部卒
経営学研究所修士課程修了
認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパン 事務局長

他人が変わる瞬間に立ち会って、自分の視点では感じられない立場からの変化を得る

日時：11/28 10:00~13:00
開催形態：ZOOM



月に1回、国立市内で清掃活動を行うプロジェクト

お掃除プロジェクト

リーダー：角 颯真



「一橋生を国立市に送り込む」を目標に、Kuni-Projectの第1弾企画として始動した本プロジェクトは弊団体が発足した2020年の12月から毎月欠かさず、各地でお掃除に取り組んで参りました。11月には都立国立高校、都立国分寺高校、桐朋高校の生徒の皆さんと、12月にはNHK学園の学生の皆さんと共同でお掃除を実施しました！お掃除を通して、地域に新たなつながりを作り出すことができています。1月には滋澤塾外の一橋生も巻き込んだお掃除を企画しているほか、2月には国立学園小学校の学生の皆さんとお掃除を予定しています！

上野千鶴子先生のお話しよう！
上野千鶴子先生のオンラインイベント
日時 12/6(月) 15:30~17:30
開催形態 zoom開催
先着50名様
お申込みはこちら

登壇者紹介



上野 千鶴子

社会学者
東京大学名誉教授、
認定NPO法人ウィメンズアクション
ネットワーク(WAN)理事長
専門は女性学、ジェンダー研究

多様な性のあり方を目指すプロジェクト

みなみな

リーダー：小目谷 藍美・松下 倫子

本プロジェクトは、多様な性のあり方が受け入れられる社会の実現に向けて様々な取り組みを行ってきました。12月6日に東京大学名誉教授の上野千鶴子様を登壇者として呼びし、座談会を開催しました。41名の方に参加していただき、参加者と上野様の双方向的な議論に成功しました！
2022年から、みなみなは2期に突入り、国立市のSOGIの問題に取り組むプロジェクトに生まれ変わります。これからも様々な角度からジェンダー問題に取り組む本プロジェクトに期待です！

いつでもプロジェクトを 始められる環境の重要性について

「国立市民とのつながりを増やし、国立市全体を一橋生の力で盛り上げていく」ために提供したい三つの価値があります。その中で一番初めに掲げているのが、「いつでもどんなプロジェクトでも始められる環境」です。多くの学生は学生生活の中で自分のやりたいことを探しています。しかし、それを見つけることはとても難しく、もし、何か見つけたとしてもその瞬間の熱量は時間と共に消えてしまいがちです。だからこそ、心が動いた時にそれを始められることが必要だと考えました。

私たちの考える、「やりたいこと」には特別強い想いは必須ではないと思っています。漠然とした問題意識、日常生活でなんとなくいいなと思っていることなど、そのままでは仲間を集め、時間を割き、何か目的を設定して活動しようとは思わないことに、むしろ取り組んでほしいのです。

実際にプロジェクトに参加しているメンバーからは「何か始めるのって意外と簡単」「もってできることがありそうだから、新しいプロジェクトを立ち上げたい」といった声を聞きます。この気づきが人の考えを変え、行動を変え、大きな流れとなって社会を変えられると私は信じています。

多くの一橋生に、日々学び、自身で思考した先に「実践」というステップを提示することで、地域社会の問題を



広報隊長

松下 倫子



マネージャー

関根 しほ



リーダー

渡邊 花梨



外国にルーツを持つ小中学生への学習支援を行うプロジェクト

スタチア

リーダー：樋口 祐熙

「子供たちに学校・家以外のサードスペースを提供する」をモットーに活動している本プロジェクトは、学習支援教室を開始してから早くも4ヶ月が経ちました。定期的にお楽しみ会を開催しており、11月には収穫祭を開催しました。これからは学習面以外での居場所づくりも目指して活動していきます。



家庭系食品ロスをリサイクルできる場を設けることを目指すプロジェクト

フードロスPJ

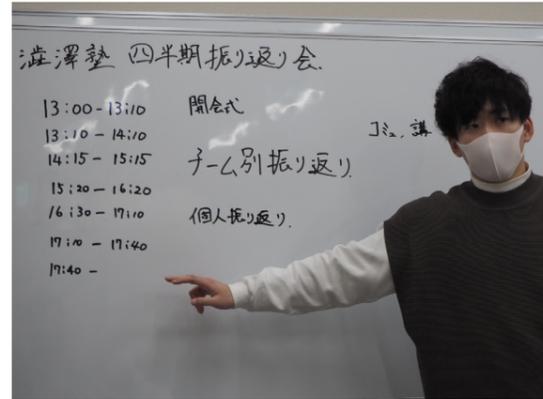
リーダー：永田 公実子

フードロスプロジェクトは、国立市の食品ロス削減のために、食品ロスの現状や原因を把握する自主ゼミ、大学生協とのコラボ案策定、国立市や社会福祉協議会などの関連機関との協議を行ってきました。2022年度から本プロジェクトは活動を本格化させます。飛躍の年となること間違いなしです！

Kuni Project (通称クニプロ)では「一橋・国立でしかできない密接な地域活動を実施する」を活動指針とし、「一橋生と国立地域とのつながりを増やし、国立市全体を盛り上げていくことを目指します。」



Quarter 4の活動内容を振り返り、次のQuarterに向けての方向性を話し合う講演会チーム。



今回の四半期振り返り会の時間配分を説明する草田代表。
代表就任後初の対面での四半期振り返り会ということで緊張していました。

本イベントは、それぞれのメンバーがこれまでの四半期を振り返り、次の四半期へ一歩踏み出すきっかけとなります。本イベントはチームの

活動を振り返るパートナーに分かれます。チーム単位での振り返りと目標設定を行い、相互にフィードバックすることで、それぞれの学び・思考・実践のサイクルを回すことを狙いとしています。また、本イベントはオンライン上での活動が多い濫澤塾のメンバーが対面で交流し、親交を深める場になっています。

本四半期の活動を振り返り、次の四半期に向けて計画を練るクニプロチーム。大所帯ということで、いくつかの班に分かれて開催されました。クニプロリーダーの渡邊花梨が対面で参加できなかったため、本振り返り会でクニプロチームをまとめたのは松下倫子。大所帯をしっかりとまとめられていて、すごかったです！



設立時からおよそ1年間、副代表を務めていた山岡 麗奈がQuarter 4を持って副代表を退任。四半期振り返り会では、ブーケが渡されるなど退任セレモニーが実施された。



2022年度 Quarter 1 から山岡麗奈（中央左）が副代表を退任。草田開地（中央右）が代表、永田公実子（右）が副代表を統括し、小目谷藍美（左）が新たに副代表に就任することとなった。



COMMENT

代表 草田開地

四半期振り返り会は、3ヶ月に一度運営メンバー全員で各チーム、個人の活動の振り返りを行い、次の目標を立てる、恒例行事です。今回は大学からの活動許可に基づき、初めて対面で実施されました。濫澤塾としては初めての秋冬学期を乗り越え、学業と両立しながら濫澤塾の活動を精力的に行ったメンバー同士、互いに労いながら次の目標設定を行うことができました！

これまでの四半期を振り返り、次の四半期へ一歩踏み出すきっかけになる



これまでの四半期を振り返る。12月18日に開催された四半期振り返り会の様子をご紹介します。

四半期振り返り会

Quarter 4



次回予告

次回も3月に対面で開催する予定です！
その様子は次号でじっくりとお伝えします！

幹部交代のお知らせ

団体設立当初から昨年の六月まで、瀬崎章吾（以下、瀬崎）が代表を、山岡麗奈（以下、山岡）が副代表を務めるという体制で澁澤塾は運営されてきました。瀬崎章吾が6月を持って代表を退任した後も、山岡は副代表を継続して務めました。その山岡が昨年の一二月をもって、副代表を

退任しました

そして、九月から団体の激動期を支えた関根しほも昨年度の第四半期をもって副代表を退任しました。

今年度の第一四半期では、経済学部二年の草田開地が代表を昨年の六月から引き続き務め、社会学部一年の永田公実子が副代表を九月から引き

続き務めます。また、新たに社会学部一年の小目谷藍美が副代表に就任します。世代交代を印象付けた今回の幹部交代ですが、新幹部陣がどのように団体を前に進めていくのか期待です！



澁澤塾創設者の瀬崎章吾（右）と設立時からおよそ1年の間、副代表を務めた山岡麗奈（左）



副代表

小目谷 藍美



副代表

永田 公実子



代表

草田 開地

編集後記

2021年12月1日、学生団体澁澤塾は一周年を迎えました。様々な方々のご協力もあり、この一年で弊団体は大きく飛躍することができました。

本誌を編集していると、弊団体の活動がいかに様々な方々のご支援・ご協力のもと成り立っていることを痛感しました。

澁澤塾は設立から一年ほどしか経っていないこともあり、その活動を多くの一橋生、一橋OBOG、地域の方々にご周知することはできていません。

本誌を通して、学生団体澁澤塾がより多くの一橋生、一橋OBOG、地域の方々にとって身近な存在になることを願っております。

学生団体澁澤塾
季刊誌「Tsunagu」制作チーム

各種 SNS



学生団体澁澤塾
Twitter



学生団体澁澤塾
Instagram



学生団体澁澤塾
Facebook



学生団体澁澤塾
HP

	詳細	今年度会計
支出の部	HP 製作・維持費	21,000 円
	PR 動画製作費	2,199 円
	チラシ製作費	3,201 円
	季刊澁澤塾製作費	6,007 円
	団体名刺製作費	1,180 円
地域活動 (Kuni Project)	物品購入費	882 円
	上野千鶴子 様 講演会開催費	5,000 円
一橋名鑑	一橋名鑑用 HP 維持費	9,180 円
クラウドファンディング	クラウドファンディング準備金	29,578 円
支出合計		78,155 円
収入の部	クラウドファンディング振込金	114,400 円
	日本ロレアルによる一橋生向けイベント集客お礼金	5,000 円
収入合計		119,400 円
次年度繰越金		41,245 円

2021年度会計報告

会計担当…澤田和樹・岡本青

2022年度 冬季 (第1号)

2022年1月4日発行

Editor

亀井康希
Koki Kamei

Writer

亀井康希
Koki Kamei
山岡麗奈
Reina Yamaoka
高橋優里子
Yuriko Takahashi
渡邊花梨
Karin Watanabe

Designer

亀井康希
Koki Kamei

Photographer

亀井康希
Koki Kamei
松下倫子
Rinko Matsushita

Proofreader



澁澤塾

SHIBUSAWA JYUKU